

経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県 高島町

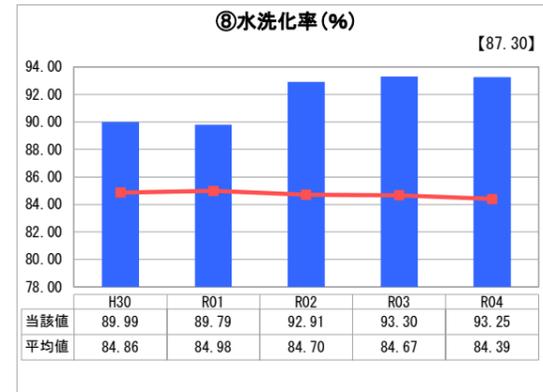
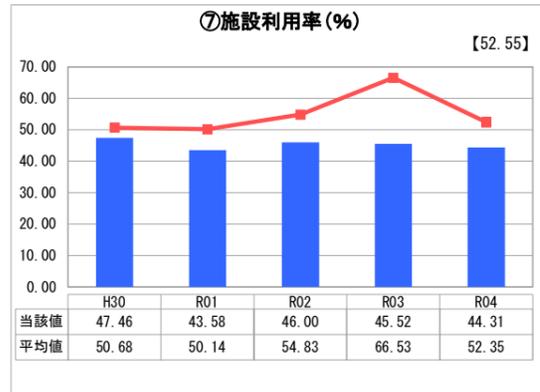
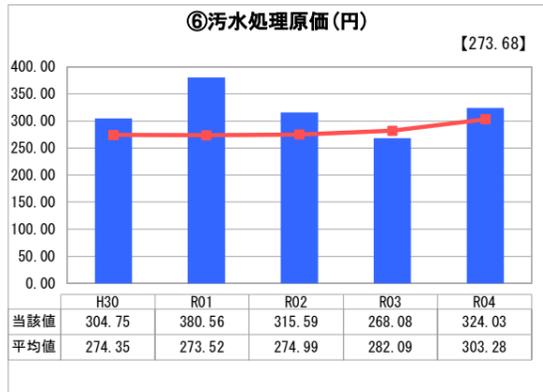
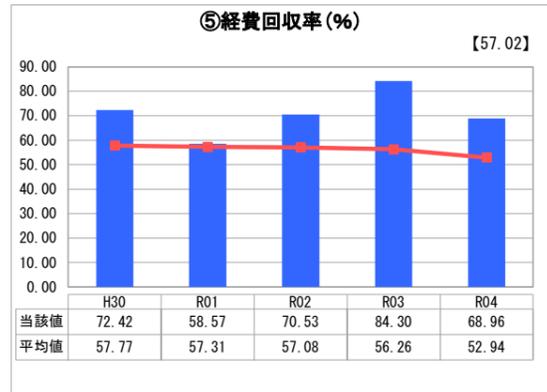
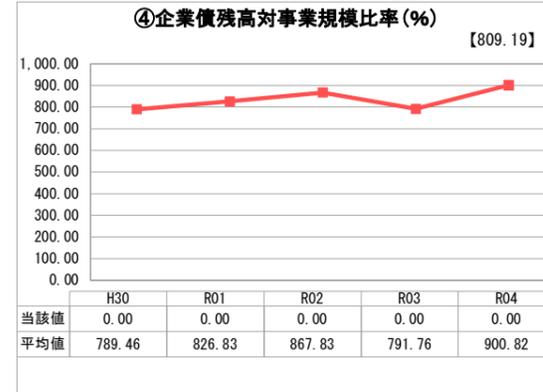
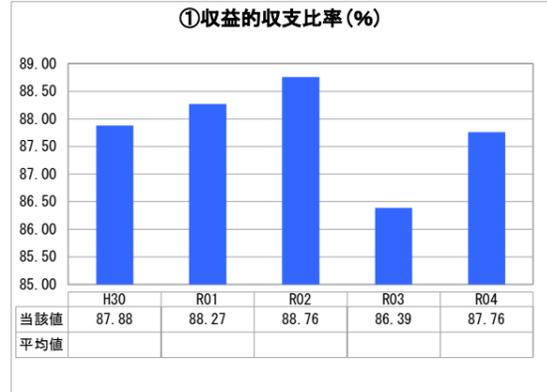
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	3.58	87.83	4,290

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,094	180.26	122.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
785	0.76	1,032.89

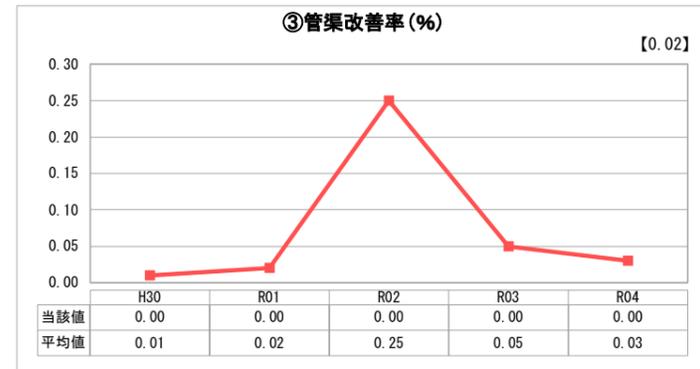
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成16年度以降、大きな整備事業を行っていないため、企業債の借入れをしておらず、企業債残高は減少し続けている。指標全般に言えることだがほぼ横ばいで状況は落ち着いている。処理区域内の人口は減少傾向にあるため今後も使用水量の増は見込めない状況にある。使用料金は県内一高く(20㎡あたり：4,290円消費税込み)値上げによる増収が難しいが効率的な運営方法や経営戦略の分析・予測に基づき、より効率的な事業運営を進めていく。

2. 老朽化の状況について

中和田地区の建設事業開始が平成4年、竹森時沢地区の建設事業開始が平成7年と30年が経過している。管渠については早期の改修の必要性はないが、汚水処理施設の老朽化は待たないで次々壊れている状況にある。経営能力に基づいた点検調査を行うとともに更新計画に基づいた更新を行い費用の平準化を進めていく

全体総括

事業開始から30年が経過し、整備自体はほぼ完了している。事業規模が小さい上に処理区域内の人口が減少していることから経営的に難しい状況にある。使用料収入の増収が見込めないことから、今後は維持管理の効率化をはかめることはもちろんだが、計画的な修繕計画により費用の平準化を検討していく。なお、農業集落排水事業は令和6年度から法適用事業へ移行すべく、現在移行作業を行っているところであり、企業会計へ移行することで、現在以上に的確な経営状態の把握ができるようになることが期待される。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。